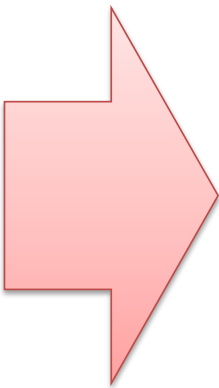


■直近5年の人口推移と人口推計案

資料2－2

データ元	今回推計基準年 H27		H28		H29		H30		H31 (R1)		(推測値) H32 (R2)	
	2015年10月1日	前回との 差	2016年10月1日	前回との 差	2017年10月1日	前回との 差	2018年10月1日	前回との 差	2019年4月1日	前回との 差	2020年10月1日	前回との差
住民基本台帳	124,238	-649	123,682	-556	122,952	-730	122,322	-630	121,905	-417	121,309	(過去5年の平均値) -596
社人研H30	124,111										121,688	
(住基との乖離)	-127										379	
橿原市前回ビジョン	125,153										124,427	
(住基との乖離)	915										3,118	

- ⇒上の表からわかること
- ◎直近5年で見ると、年間平均600人程のペースで人口が減少している。
 - ◎社人研H30の推計を上回るペースで人口が減少している。
 - ◎2020年の推測値では、橿原市前回ビジョンと住基で3,000人強の乖離が出る。



【推計案】

- パターン①：前回の推計と考え方を大きく変えず、時点修正のみとする。（2040年に合計特殊出生率1.83に、2060年に2.07に到達、転出超過を0）
- パターン②：自然増減は前回と変えず（2040年に合計特殊出生率1.83に、2060年に2.07に到達）、社会増減のみ修正（転出超過を1/2に抑える）。
- パターン③：自然増減を修正し（2040年に合計特殊出生率1.83に、それ以降は維持）、社会増減は前回と変更なし（転出超過を0）。
- パターン④：自然増減を修正し（2060年に合計特殊出生率1.83に到達）、社会増減は前回と変更なし（転出超過を0）。
- パターン⑤：自然増減及び社会増減の両方について、修正する（自然増減は、2040年に合計特殊出生率1.83に、それ以降は維持。転出超過を1/2に抑える）。
- パターン⑥：自然増減及び社会増減の両方について、修正する（自然増減は、2060年に合計特殊出生率1.83に到達。転出超過を1/2に抑える）。

※合計特殊出生率1.83＝国民希望出生率

※合計特殊出生率2.07＝人口置換水準（人口が増加も減少もしない均衡した状態となる合計特殊出生率）